



Community Hour 2019

遊びを通して子どもへの支援

高田ゼミ メンバー



浅野菜月

阿部有奈



内海有理

菅 美海



片山彩乃

川添裕菜

坂川 歩

関 歩未

鷹谷優太

長田大輝

水田真結

森崎雄斗

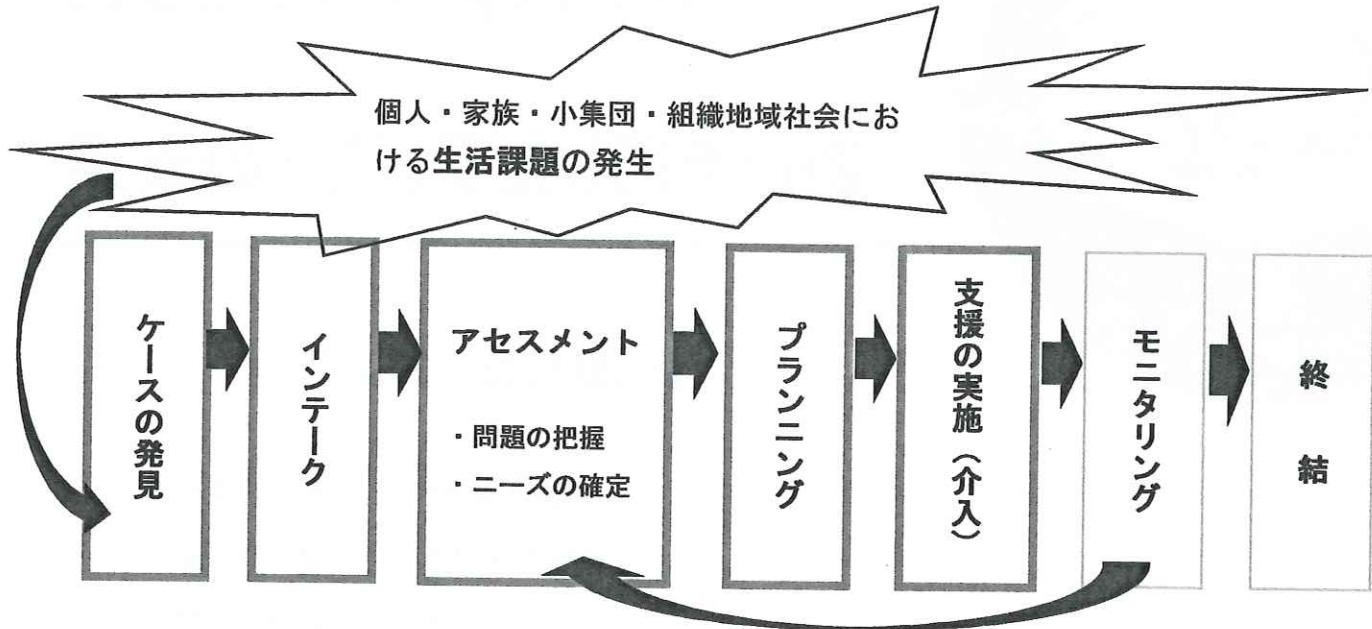
三好悠河



高田ゼミの特色

高田ゼミでは、子どもや家庭の問題をテーマとして、一般的なソーシャルワークのプロセスに準じて、コミアワを進めた。特に「ケースの発見」から「支援の実施」までを行った。また心理福祉コースの履修者が多いため、ソーシャルワークの考え方方に加えて、臨床心理学的な理解や支援技法を取り入れた。

●ソーシャルワークのプロセスとは？



「ケースの発見」・「インテーク」のプロセスとして実施したこと

◆ 施設見学の実施 赤穂市立青少年育成センター・赤穂市立教育研究所・児童養護施設 光都学園

支援の現場では、どのような問題が起こっているのか知るために、大学を出て施設見学を行い、様々なお話をうかがった。学校現場では、不登校やいじめ、発達障害等が問題となっており、それらに対するスクールソーシャルワーカーの活動について理解を深めた。また児童養護施設での見学では、施設内での性問題行動への対応の難しさについて学んだ。



「アセスメント」のプロセスとして実施したこと



高田（豊）
ゼミ

施設見学をふまえ、大学に戻ってから3つのグループに分かれ、テーマを設定した上で、調べ学習を行った。

そして、その成果について、ゼミ内発表と子ども支援セミナーでのポスター発表を行った。

子ども支援セミナー・ポスター発表内容

グループ① 児童養護施設とスティグマについて

施設の子ども達が周囲から受ける偏見の目やそれによる負の印象（スティグマ）について調べた。

児童養護施設に対するネガティブなイメージや偏見、誤解等によって児童養護施設建設への反対といったことが生じている。これらは典型的な NIMBY 問題※と捉えることができる。

これらに対応するためには、学校教育等を活用して施設に対する適切な理解を醸成したり、メディアによる発信、直接的な交流による相互理解を促したりする取り組みが必要と考えられた。

※NIMBY (Not In My Back Yard) とは、社会的必要性は感じるが、自分の居住地で生活に影響が出るようなことは認めがたいという考え方、姿勢、態度

●メンバー：浅野菜月 阿部宥奈 鷹谷優太



グループ② 子どもの性問題行動への理解と対応

性的虐待は、加害者からの口止めや家族を壊したくないという理由から、虐待の中で最も認知され難い。性的虐待が子どもに与える影響は、トラウマを植え付けるだけでなく、性問題行動により日常生活を送ることが困難になったり、性的に不適切な行動をすることによって更なる被害を呼び寄せたりすることがある。性問題の再発防止のためには「安心・安全な居場所の確保」「被虐待児の感情のコントロール」ができるよう治療教育を施していくことが必要になると考えられる。しかし、世界でも治療教育は始まったばかりで、まだ治療効果が得られたデータは挙げられていないことを知った。



●メンバー：水田真結 片山彩乃 菅美海 川添裕菜 坂川歩

グループ③ 発達障害と就労支援

発達障害と就労支援について、特に自閉症の就労支援に焦点を当て、それぞれの症状に応じた支援について調べた。自閉症への支援プログラムとして、TEACCH プログラムがある。日本では「ねばならない」という考え方方が主流であり、この考えでは障害のある方に無理を強いてしまうことがある。TEACCH の考え方を取り入れると、能力の向上をはかりつつ、環境を調整する（例：視覚支援や構造化）ことができる。そのことで、その人が社会の中で環境とよりよく機能できるように支援することができると考える。



●メンバー：森崎雄斗 三好悠河 内海有理 関歩未 長田大輝

●取り上げた課題

3つの調べ学習の中で、特に児童養護施設における「子どもの性問題行動への理解と対応」を実践活動に取り上げた。

「プランニング」・「支援の実施」のプロセスとして実施したこと

「性問題行動」への対応を考える際、性教育等の専門的なケアプログラム（右図の STEP3 に相当）が考えられるが、これらのケアを行っていく際には、まず生活環境が安全・安心であること（STEP1）、子どもの健全発達を促す体制があること（STEP2）が大切になる。

そこで、施設における環境、特に人的環境が安全・安心で、子ども達が相互に育ちあえるための支援として、次の2つのプログラムを行った。



◆ セカンドステップ・プログラム

セカンドステップは、さまざまな社会的スキルを身につけるプログラムである。自分の感情を言葉で表現したり、他者の感情を理解したりするスキル（共感性）、問題を解決するスキル、怒りや衝動をコントロールするスキルを育てる。



◆ プロジェクト・アドベンチャー

施設でのセカステ実施風景

PAでは、グループで協力しながら、さまざまな遊びを行う。安心できる仲間との協力関係の中で、達成感や成功体験を重ね、自尊感情などの子どもの心を育てる体験型学習となっている。仲間から尊重されることで、今までの自分には相容れなかった考え方や価値観に開かれ、気づきが生まれることもある。

●PAのアクティビティ

- ・アイスブレーカー、ウォームアップ：グループのメンバーが互いに知り合う遊び
- ・ディインヒビタイザー：グループの参加者が比較的低いレベルのリスクに挑戦できる遊び
- ・コミュニケーション：意見や感情を表現する機会が多く含まれた遊び
- ・イニシアティブ（課題解決）：効果的にコミュニケーションをとって協力し合う経験ができる遊び
- ・トラスト：身体的、心理的なリスクのある様々な活動を通して、自分は守られていると実感する遊び

